

一般財団法人神奈川県警友会  
けいゆう病院

横浜市西区みなとみらい3丁目7番3号  
TEL045-221-8181

施設拡充と連携強化で地域医療を支援  
網膜硝子体センター開設でより高い専門性をもって

病院の沿革・概要

1934年(昭和9年)に、神奈川県警の職域病院として「警友病院」が誕生しました。当初は横浜市の山下公園近くにあり、病床数56床、診療科8科(眼科含む)でした。その後、1996年(平成8年)に横浜市臨海地区のみなとみらい21に新築移転し、「けいゆう病院」に改称され、病床数351床、診療科19科、常勤医師数68人になりました。2000年にはさらに増床となり、現在は410床、診療科32科、常勤医師数131人です。また当院は、2012年に「神奈川DMAT」、2013年には「神奈川DMAT-L」に指定されました。

当院へは、みなとみらい線みなとみらい駅から徒歩約3分、車なら首都高速神奈川1号横羽線みなとみらい出口から約500m、横浜駅や桜木町駅からはバスの本数も多く、アクセス良好です。周辺には、パシフィコ横浜をはじめ、



鈴木 浩太郎  
部長

病院外観(左：診療棟、右：病棟)



眼科—いま総合病院では—



手術風景

美術館やコンサートホール、多くのホテルや大型のショッピングモールなどが建ち並んでおります。当院は診療棟と病棟の2棟から成り、共有スペースは吹き抜けでホテルのロビーのような空間が演出されており、病棟ではどの病室からも隣接する海が見えるよう半円形に設計されております。2022年度には敷地内に薬局棟を増築予定で、診察から会計後の薬の受け取りまで、よりスムーズに進められるようになります。

診療体制

当科では、常勤医師9人(うち眼科専門医5人)、非常勤医師1人の他、ORT5人、看護師3人、医療秘書1人、受付事務1人の診療体制となっております。

外来診療は、月～金曜日の午前は4診、土曜日の午前は1診(2・4週のみ)で対応し、平日の午後は特殊外来を行っております。患者さんには治療方針を分かりやすい言葉で説明し、科学的な根拠に基づく治療を心掛けております。

手術日は火・水・木曜日で、緊急手術は必要に応じて対応しております。手術は日帰りから短期入院まで、患者さんの全身状態と家庭背景を考慮し、ご相談の上、フレキシブルに決めています。中には、病院周辺のホテル

に宿泊し、日帰り手術を選択する患者さんもいらっしゃいます。

2020年の手術件数は、白内障手術1074件(併施含む)、網膜硝子体手術374件、緑内障手術31件など、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、前年より約20%減少してしまいましたが、緊急手術はスムーズに対応できるようになりました。

網膜硝子体センターと羊膜バンク

2019年10月に「網膜硝子体センター」を眼科内に開設しました。網膜硝子体手術治療、黄斑変性治療、そしてロービジョン外来の3本柱で構成されています。

(1) 網膜硝子体手術

網膜硝子体疾患に対して、手術までの迅速化・効率化を図り、最適なタイミングで施行することを目指しています。



外来スタッフ



当科スタッフ  
最前列左から、窪野裕久副部長、私、川村真理参事兼網膜硝子体センター長、山下和哉医長  
二列目左から、福本隆基医師、大藤嘉子医師、佐藤真帆医師、佐藤里櫻医師、永本崇医長

## 病診連携

### 患者さんをご紹介いただく先生方へ

当院では、紹介患者さんを長時間お待たせすることなく、迅速に診療ができるように紹介初診予約を行っております。紹介状があっても予約がない場合は、長時間お待ちいただくことがあります。事前に電話またはFAXにてご連絡いただければと思います。紹介状FAX用紙は当院ホームページ（ホーム＞地域の先生方へ＞紹介患者さん初診予約のご案内）よりダウンロード可能です。

緊急手術などの対応により、予約でも担当医師が変更になる可能性があります。ご了承ください。

#### けいゆう病院

##### 地域医療連携センター（地域医療連携課）

##### 予約ダイヤル

TEL: 045-221-8292(直通)

FAX: 045-221-8206(直通)

受付時間：月～金曜日、13:00～17:00

##### お問い合わせ

TEL: 045-221-8181(代表)

(内線: 5205)

受付時間：平日 8:30～17:15

土曜日 8:30～12:30

休診日：第1・3・5土曜日、日曜日、祝日、  
年末年始

### 最後に

私は、けいゆう病院に来て11年になります。その間に、大学からの出向医師4人の体制から、現在では常勤医師9人となり、安定した地域医療を提供できる環境になりました。2019年10月に前任の川村真理先生より部長職を引き継がせていただきました。最初に取り掛かったことは、外来の診療体制や緊急患者への対応、早期に治療が必要な方への導線確保などの検討ですが、残念ながら、2020年の年明けから新型コロナウイルス感染症対応に追われてしまいました。横浜港に停泊していたクルーズ船は病院の

対岸に位置し、目視できる状況でした。得体の知れぬウイルスに、病院全体が緊張感に包まれていました。連日、テレビでクルーズ船のニュースが流れ、当院の救急車が映し出されると、翌日の外来患者数が如実に減少したのを体感しました。昨年は今までにないくらい多くのことを経験しましたが、新しい医療体制を確立して、高度な医療を提供し、患者さんに優しい病院を目指して成長し続けていきたいと思っています。これからも暗闇に迷うことのないよう、船舶の航行を安全に導く灯台のように、みなとのみらいを照らし続ける『けいゆう病院』でありたいと思います。

具体的には、網膜剥離に対しては初診当日または翌日の手術を基本とし、遅くとも数日以内には緊急性に応じて施行することを目標としています(慢性の経過を持つものは除く)。穿孔、眼内炎、黄斑下出血等(新鮮なもの)も原則、当日またはできるだけ速やかに対応しています。緊急性の低い黄斑疾患(黄斑円孔、硝子体黄斑牽引症候群、黄斑上膜など)は、初診から約1か月を目途に手術を施行しています。増殖性硝子体網膜症や硝子体出血は、全身の状態も治療に大きく影響しますので、それらも考慮し手術時期を検討します。

#### (2)黄斑変性治療

黄斑変性には、複数のVEGF阻害剤の中から患者さん一人ひとりに最適な薬剤を選択して投与します。また、患者さんによっては光線力学療法の単独・併用治療も行なっております。月・木曜日に注射外来を設けており、円滑に安心して受けてもらえるよう心掛けております。

地域の先生方とは、VEGF阻害剤投与を自施設でされる場合でも、治療開始前や治療中において、蛍光眼底造影(FAG、ICG)撮影、自発蛍光やOCTアンギオ、脈絡膜厚測定などの検査のみご紹介もお受けするなど、連携を密にしています。

#### (3)ロービジョン外来

現状以上の視機能の回復が難しい患者さんに対して、現存の視機能で安全で快適に日常生活を送っていただけるように補装具の選定をいたします。予約制で、じっくりと時間を

かけて患者さんのニーズを伺って、遮光眼鏡やルーペなどの貸し出し、生活のヒントなどをお話します。必要に応じて専門施設へのご紹介もいたします。視覚障害者用補装具適合判定医師3人が常勤しています。もう一つの特徴として、当院は日本組織移植学会が認定した国内に8か所ある「羊膜バンク」の一つを有しております。使用する羊膜は、当院の産婦人科の全面的な協力を得て確保し、同学会の規約に従って運営しています。

### 地域との連携

昨年11月に、当院の状況説明会をオンラインで実施させていただきました。近隣の開業医の先生方、地域の中核病院の先生方とWEBでディスカッションをし、当院で行なっている入院手術患者に対するPCR検査または抗原検査と胸部単純CT検査の施行状況など感染対策の情報共有、救急患者への手術対応方法を説明させていただきました。

反響も大きく、毎年オンラインで開催できればと思うほどでした。地域の先生方のご理解が得られ、安心して患者さんをご紹介いただける状況に変わってきたかなと思います。